

## 9 体育会の歴史

[体育会の動き](#)[学生の動き](#)

1947年

### 学生会発足

級委員会・文化会・体育会の三部で構成された学生自治の学生会が発足した。学生は全員がいずれかの会に所属することが義務付けられ、それぞれの運営費として全学生から徴収したのが「学生会費」である。これは大学が正規学費と同時に徴収し、学生会に引き渡すという代理徴収の形がとられていた。

### 体育会OBクラブ設立（現 体育会OB・OGクラブ）

1949年

### 「同志社大学・立教大学総合定期戦」開始

これまで部単位での交流戦を行ってきたが、両校対抗の「総合定期戦」として開始し、両校は強い結びつきを持つようになった。

**ひとこと**

#### 「同立総合定期戦」

戦前の1931年に、水泳部の学生が学友会資金の使途として「東西を代表するミッション系大学の親善大会を行う」ことを計画し、スポーツ・文化の交流を始めたことに由来する。

「池袋の街始まって以来の大騒ぎになった。」との記述が残り、相当盛り上がったことが伺える。

1953年

### 体育会黄金時代

1963年

体育会推薦入学制度などにより、人材、資金ともに充実し、各部が素晴らしい成績を収める。

この十数年間がいわゆる「体育会黄金時代」である。

[体育会の動き](#)[大学の動き](#)

## 1956年 **上板橋に総合グラウンド建設**

東京都より上板橋緑地の一部を借り受け、総合グラウンド（グリーン・ハイツ）を建設した。

## 1961年 **体育会推薦枠の減少**

人材不足、戦力低下の始まり。

### **リーダースキャンプ開催**

体育会員の入学難が起こり、既成選手の入学が極めて困難になる。大打撃を蒙った体育会は自らその体質改善を図ることを考え、大学に根ざした大学スポーツというものに真剣に取り組むことにその活路を見出そうとする。

この流れを受けて部の発展に欠かせない人材・施設・財政などの問題解決は体育会全体が自主的に取り組むべきだという考えが生まれる。

それらを学習、検討し、各部の相互理解を深める場としてリーダースキャンプが開催された。

## 1962年 **体育館設立実行委員会発足**

体育館の建設促進のため設置された。（1985年、施設委員会に改組される）

## 1963年 **フレッシュマンキャンプ開催（現フレッシュャーズキャンプ）**

体育会員のより高い質的向上を図るため、新入会員に対し体育会活動の理念と現状を理解してもらい、体育会員の自覚と責任を促すためにフレッシュマンキャンプが開催された。

## 1964年

}

## 1972年

### ミュージックフェスティバル開催

体育館設立実行委員会の企画により、ミュージックフェスティバル（音楽祭）が開催される。

この企画は9年間続けられ、その9年間の収益金とOB・OGからの寄付金を合わせた約500万円は全て大学に寄付された。

## 1966年

### 同好会ブーム

人材不足、戦力低下に拍車がかかる。

## 1967年

### 体育会OBクラブが要望書を提出

体育館建設に関する「要望書」を大学に対して提出。

## 1968年

### 富士見町の土地を購入

東京都から上板橋緑地の返還要請がある。

大学はそれを受託し、埼玉県富士見町の土地を購入した。

## 1969年

### 学園紛争

- (1) 級委員会執行部がリコール（解散請求）（自治活動を展開していないとの批判を受け、執行部が混乱したことが原因）。➡ 級委員会が消滅し、文化会と体育会の両学生会に属さない学生が半数を超えた。
- (2) 文化会執行部がリコール（独自の文化活動を行えていないという執行部への批判が相次いだため）。➡ 級委員会・文化会・体育会の三部構成から、体育会と改組された文連（文化団体連合）の二部構成運営となる。

※大学は代理徴収を打ち切らず、全学生から学生会費を徴収しつづけた。

1969年

富士見総合グラウンド建設

馬術用地購入

監督・コーチ協議会発足

**「明治大学・立教大学総合定期戦」開始**

これまで部単位での交流戦を行ってきたが、「両校の建学精神に基づき、体育活動を通して心身を鍛練し、両校の親交を深め、技術の交換・向上を計り、以って両校の発展に寄与し、体育文化の高揚に務めるとともに、健全なる学生スポーツの担い手となる」という理念のもと、「総合定期戦」が開始された。

**ひとこと****「明立総合定期戦」**

明立総合定期戦最古の試合としては、1937年に行われたアイスホッケーの試合の記録がある。「両校の学生が会場に駆けつけ大観衆はスピードに乗った攻防に惜しめない声援を送り、歓声がものすごかった」と当時の状況が記されている。

他の種目では、日本大学を加えた「日立明水泳大会」や1954年からなる「日立明三大学レガッタ」、また馬術部・バレーボール部などが日大を加えて定期戦を行ってきた。

## 1970年 体育会推薦入学制度廃止

### 《理由》

#### ●大学の社会的責任を考慮したこと。

学力の審査を受けずに入学した学生を立教大学の卒業生として社会に送り出すことは、最高学府である大学の責任に反する。

#### ●不明瞭さの残る入学制度は実施すべきではない。

寄付入学・校友子弟入学・聖職者子弟入学・教職員子弟入学などの入学制度の不明瞭さが相次いで批判を受け、この流れに巻き込まれる形で体育会推薦入学制度も廃止された。

#### ➔人材の不足、戦力の低下

大学からの協力を得られない危機感

#### ➔体育会組織力の向上を図る。

## 1972年 マネージャー研修会開催

マネージャー（主務）の実務的仕事の理解、相互の親睦を通して、マネージャーの有り方を検討し、その成果を今後の部活動及び体育会組織造りに生かすという趣旨の元、マネージャー研修会が開催された。

（1980年まで行われ、その翌年からはリーダースキャンプの中にその趣旨を盛り込み、一本化した。）

## 部長幹事会発足

各部部長若干名によって構成される部長幹事会が発足し、「要望書」を大学に対して提出。

## 要望書の提出

「一般教育部体育科」「体育会」「監督コーチ協議会」が連名で体育館建設に関する「要望書」を大学に対して提出。

## 1972年 「立教スポーツ」編集部創設

体育会の情報宣伝機関として活動する。

## 1973年 常任委員会設立

体育会諸問題を検討する組織の必要性がリーダーズキャンプで取り上げられ、設立した。発足当時の活動内容は、体育館設立についての諸問題検討、実質的な設立要請運動の展開、また立教大学において学生自治組織の一翼を担う体育会がどのように関与すべきか等、体育会の本質を導き出そうといったところにあった。

### 第一回総長会見実施

同年に常任委員会が体育館建設に関する「要望書」を総長に対して提出。

## 1974年 OBクラブが総長に対し要望

体育会OBクラブが体育館建設を総長に対して要望。

### 体育会が要望書提出

5259名（学生の約半数）分の署名を添付し、体育館建設に関する「要望書」を提出。

## 1975年 文連執行部に対する不承認表明

文連執行部選挙が行われたが選挙管理の正当性、妥当性をめぐり疑惑の声が上がった。そこで再選要求の会議のために結集した学生を文連執行部が暴力で制圧した。

大学はそれに対し、文連執行部の不承認を表明した。

## 1976年 学生会費の代理徴収停止

その後も文連執行部は暴力的な行為を少しも改めようとしないうえ、大学は学生会費の代理徴収を停止した。それにより、体育会は経済的基盤を失った。

## 新入生歓迎活動実行委員会設立

人材不足に陥り、積極的な勧誘が不可欠となる。常任委員会を母体として設置された。

## 1977年 体育会活動振興資金設立

体育会が自治組織として活動し発展と成長を遂げるためには、一人一人が積極的に活動に関わることが大事であり、またそのためには体育会は経済的にも自立しなければならないという共通意識が生まれた。

体育会は自らの活動を自らの力で支えつつ、互いの発展を目指す場であり、かつ自治組織であるということ意識しなければならない。その意識と、それによって作られた組織をいつまでも維持・発展させていくために体育会活動振興資金が考案された。

その結果、体育会が自治組織としての経済的基盤を取り戻した。

## 1985年 施設委員会に改組

1962年に設置された体育館設立実行委員会は、体育会の戦力低下に対して部単位ではなく、体育会全体で取り組もうという動きの中で、体育施設全般の充実を図るために施設委員会に改組された。施設面において部単位ではなく体育会の代表として積極的に諸問題に取り組んでいる。

## 1990年 武蔵野新座体育館竣工（現 新座体育館）

---

## 1992年 **ウィリアムズホール竣工**

---

## 1993年 **自由選抜入試実施**

志望する学部に関連した高い能力を持つ者や、学業以外の諸活動の分野でスポーツに限らず秀でた個性を持つ者を受け入れる入学制度。

様々な人材を受け入れ、大学全体の活性化を図るという目的がある。

---

## 1998年 **学外施設利用団体援助金開始**

学内に練習場を持っていない体育会所属部は施設借用料等が大きな負担となっていた。これらの部分を体育会活動振興資金だけでは十分な援助ができないため、長期に渡って金銭援助の要求を出し続けた結果、実施された。

---

## **17号館竣工**

---

## 2005年 **課外体育施設整備計画特別予算開始**

2004年の総長会見で、総長から従来の施設修繕とは別に「今後10年間、毎年1億円程度を予算とし、体育施設の大きな改善を行う」という公約が発表された。2005年は富士見総合グラウンドのクラブハウスの改修、クラブハウスアネックスの新設が行われた。

## 2005年 **文連及び学生会の消滅**

文連執行部が不承認を表明されて以来30年間、全学的な広がりを持った新たな学生自治組織が成立しなかったことから、大学は文連及び学生会を存在しないものとし、元文連所属団体は池袋キャンパス登録団体又は新座キャンパス登録団体となった。

しかし、体育会は組織運営の自治性が認められ、独立して1つの組織として従来通りの扱いが得られるようになった。

## 2006年 **スクールバス運行開始**

新座駅－新座キャンパス－志木駅－富士見総合グラウンドを繋ぐスクールバスの運行が開始された。

## 2007年 **体育会活動奨励金開始**

体育会活性化プロジェクトの一環として、体育会活動を経済的に支援するために実施された。

## **アスリート選抜入試実施**

体育会活性化プロジェクトの一環として、2007年の9月に第一回の入学試験が実施された。

## 2013年 **ポール・ラッシュ・アスレティックセンター竣工**

## 2014年 **セントポールズ・フィールド竣工**

---

## 2015年 セントポールズ・アクアティックセンター竣工

---

## 2021年 ステップアップキャンプ開催

2年生の体育会員が部の運営に携わる上級生になるにあたり、4年生や他部の同学年と運営について議論を行うことにより、上級生としての自覚を醸成するためステップアップキャンプが開催された。